

神田外語大学生が取材した日英版「震災復興新聞」を福島県へ贈呈

— 東日本大震災・原子力災害から15年、福島の「今」を世界へ —

神田外語グループ(東京都千代田区／理事長:佐野元泰)は、東日本大震災・原子力災害から15年の節目にあたり、福島の復興と学生の学びを世界に発信する「震災復興発信プロジェクト」を展開しています。その一環として、グローバル人材の育成を目指す神田外語大学・柴田真一ゼミの学生19名が、福島県浜通り地域での取材をもとに、日英版の震災復興新聞『福島とともに(英題:”Together with Fukushima”)』を完成させました。このたび完成した本紙を、2026年1月26日(月)に福島県へ贈呈する予定です。あわせて、同プロジェクトの成果物の一つとして制作した震災復興ビールも贈呈します。本贈呈式は、学生による取材と学びの成果を、震災復興新聞を通じて福島県へ届ける機会として実施します。



▲ 震災復興新聞『福島とともに』(イメージ)



▲ 震災復興新聞”Together with Fukushima”(イメージ)

「震災復興発信プロジェクト」について

神田外語グループでは、2023年に福島県と包括連携協定を締結して以来、教育活動を通して福島との連携を進めています。

その一環として実施しているのが、学生主体による「震災復興発信プロジェクト」です。中心を担うのは、グローバル人材の育成を目指す神田外語大学・柴田真一ゼミの学生19名で、2025年8月には福島県浜通り地域を訪問。震災復興や新産業、特産品、地域振興など、「福島の過去・現在・未来」を自らの目で取材し、その経験と学びをもとに日英版の震災復興新聞『福島とともに(英題”Together with Fukushima”)』を完成させました。



▲ 福島フィールドワークの様子(東日本大震災・原子力災害伝承館)

このたびの贈呈式では、学生たちが内堀福島県知事へ本紙を直接お渡しするとともに、同プロジェクトの成果物の一つとして制作した震災復興ビールも贈呈します。贈呈式後は、本紙をもとに本学の海外提携校への発信を予定しており、福島の現状や取り組み、人々の思いや挑戦を、学生の言葉で世界に伝えていくことを目指します。

震災復興新聞『福島とともに(英題:”Together with Fukushima”)』

本紙は、行政や企業の取り組みだけでなく、福島で活動する人々の声や思いを大切に、福島の「今」を多面的に世界に伝えることを目的に制作されました。

新聞は、日本語版『福島とともに』、英語版『Together with Fukushima』の2言語で構成されています。英語版では、日本語版をベースに海外の読者にも伝わる表現や構成を工夫しました。完成した新聞は、今回の福島県への贈呈に加え、今後、本学の海外提携校へのプレゼンテーションなどで活用し、福島の姿を世界へ発信していく予定です。

震災復興ビール『綺麗 ALE』について

震災復興ビール『綺麗 ALE』は、震災復興新聞の内容をより多くの人に届け、福島の「今」に触れてもらうための発信媒体として企画されました。原材料の提供を株式会社広野町振興公社、醸造を株式会社大鵬が担い、学生たちは現地での学びをもとに、味わいや香り、色合いの方向性について醸造担当者と協議を重ねながら企画を進めてきました。ラベルデザインも学生が担当し、震災復興新聞のデジタル版へアクセスできるQRコードを印刷することで、手に取った人が新聞を通じて福島の現状に触れられる仕掛けとしています。



▲『綺麗 ALE』仕込み作業の様子(HANEDA SKY BREWING)

『綺麗 ALE』には、広野町産の「朝陽に輝く水平線がとても綺麗なみかんの丘のある町のバナナ(愛称『綺麗』)」を使用しています。このバナナには、美しい自然に恵まれた広野町の風景と、震災からの復興への願いが込められており、学生たちはその背景やストーリーにも注目しました。

本ビールは、このたびの贈呈式において初披露され、内堀福島県知事へ、震災復興新聞とともに贈呈される予定です。贈呈式後は、株式会社大鵬が運営するクラフトビール醸造所併設レストラン「HANEDA SKY BREWING」などでの提供・販売を予定しています。

関係者コメント

■ 柴田ゼミ ゼミ長

関口 椋久さん(外国語学部 国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻 3年)

震災からの復興は、数字や制度だけでは語れない、人の思いや日常の積み重ねだと取材を通して実感しました。『福島とともに』は、福島で生きる人々の声を、国内外にまっすぐ届けたいという思いで制作しました。この新聞と『綺麗 ALE』を通じて、多くの方が福島の「今」に触れ、未来へ目を向けるきっかけになれば嬉しいです。知事へ贈呈できることを、大きな節目として誇りに思います。

■ 担当教員

柴田真一先生(神田外語大学キャリア教育センター長／グローバル・リベラルアーツ学部特任教授)

今の学生にとって、東日本大震災や福島は、幼少期の記憶の中にある存在でした。しかし、フィールドスタディを通じて現地の声に触れ、記事制作、特産品販売やビール制作に関わる中で「自分ごと」へと変わっていきました。本プロジェクトは県知事への贈呈式で一つの節目を迎えますが、明日に向かって歩む福島の「今」を内外に発信していく取り組みは、ここからが本番です。ゼミ生がその担い手として、後輩とともに歩みをつないでいくことを期待しています。

日英版震災復興新聞贈呈式 開催概要(予定)

日時	2026年1月26日(月)13:00~13:20
会場	福島県庁 本庁舎5階 正庁
出席者 (予定)	福島県知事 内堀雅雄 氏日英版震災復興新聞贈呈式 開催概要(予定) 福島民報社 代表取締役社長 芳見弘一 氏 株式会社大鵬 代表取締役 大屋幸子 氏 株式会社広野町振興公社 代表取締役 中津弘文 氏 城南信用金庫 相談役 川本恭治 氏 神田外語グループ 理事長 佐野元泰 神田外語大学 キャリア教育センター長／グローバル・リベラルアーツ学部特任教授 柴田真一 神田外語大学 柴田真一ゼミ 学生 13名 など
スケジュール (予定)	13:00~13:05 贈呈・記念写真 13:05~13:15 内堀知事との懇談 13:15~13:20 記者会見 ※上記のあとに、本プロジェクトに関する座談会を福島民報社で実施予定

震災復興発信プロジェクト概要

主催	神田外語グループ
特別協力	福島民報社
後援	復興庁、福島県、城南信用金庫
協力	共同通信社、毎日新聞出版株式会社、株式会社大鵬、株式会社広野町振興公社、 公益財団法人福島県観光物産交流協会

参考

【神田外語大学】<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>

【福島県との包括連携協定】<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/320051/>

【震災復興発信プロジェクト(福島県フィールドワーク)】<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/432854/>

【震災復興発信プロジェクト(学園祭での福島特産品販売)】<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/448200/>

【震災復興プロジェクト(震災復興ビール仕込式)】https://www.kandagaigo.ac.jp/group_news/detail/0103_0000011047.html

※本学から配信されるプレスリリースは SDGs に基づいた教育環境充実の一環として、UD(ユニバーサルデザイン)フォントで作成されています。

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/52433/>

報道関係の方の取材に関するお問い合わせ先

神田外語グループ グループコミュニケーション部 担当:三上山 雄亮

TEL:03-3258-5837(平日 9:30~17:00) FAX:03-5298-4123 E-mail: media@kandagaigo.ac.jp